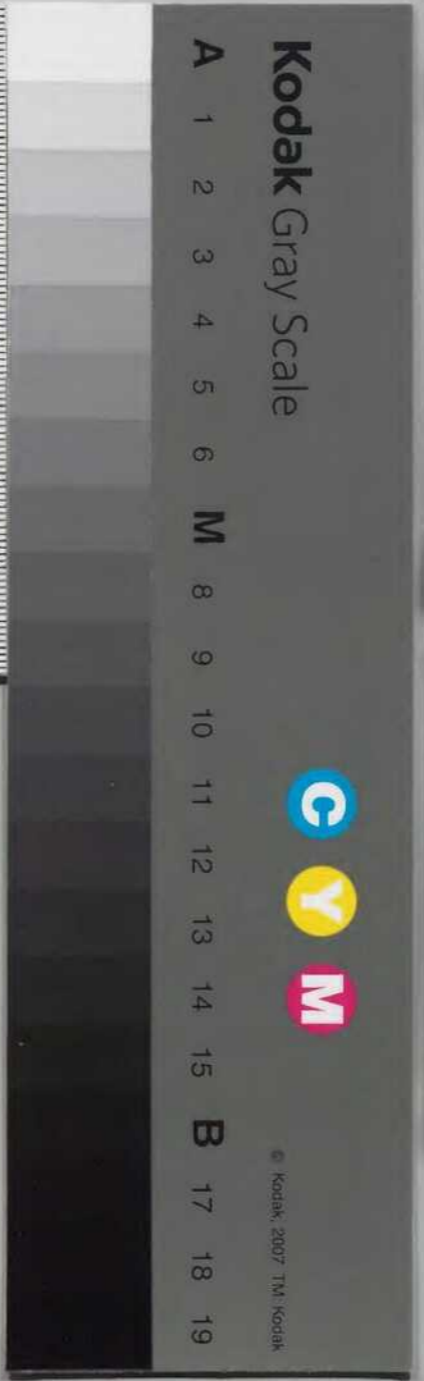


寛永諸家

嵯峨源氏  
二卷之内

|      |          |       |   |
|------|----------|-------|---|
| 内閣文庫 |          |       |   |
| 番號   | 和        | 20199 |   |
| 冊數   | 186(160) |       |   |
| 函號   | 種        | 76    | 1 |









松浦

渡邊

寛永諸家系圖傳

源氏

松浦

累代肥前松浦  
氏と云

淺草文庫

人皇五十二代

嵯峨天皇

諱多祢野



葛虫ツルムシ

大内おおいち

贈正一位おくりまさいちゐ

嵯峨天皇さやまてんかう第十一だいの源氏みなもと

昇のぼる

正之位まさいちゐ

大納言おほのくわんごん

河原大納言かわらのおほのくわんごん

号なご

仕つか

後五位下ごごいげ

武藏守むさしのり

宛あて

源次みなもとつぐ

武藏國足立郡善田郷むさしのくにすたてのむらよし

配流おくりながせ

ら家いへ六む連つらりりよよららくく善田源次よしとのみなもとつぐ

号なご一いち又また善田源氏よしとのみなもとと稱なづす



綱つな

源氏別當げんじべつどう 渡邊わたなべ 二に号ごうと  
光ひかり 曰いひ 天あま 王をう 此こゝ 最も 大おほ なり

久ひさ

源氏別當げんじべつどう

安やす

源氏右史げんじゆうし

瀧たき 口ぐち

傳つたへ

源氏位下げんじいげ

源右史げんじゆうし

瀧たき 口ぐち 物もの 官くわん

滿みち

瀧たき 口ぐち

右馬みぎうま 允のり

有あ

次郎じらう

播磨はりま 守もり



授トウ

奈古屋ナゴヤ次郎ジロウ

泰チ

瀧タニ口グチ右ミチ次郎ジロウ

久ヒサ

源ゲン大ダイ判バン官カン

松マツ浦ウラ右ミチ次郎ジロウ

直ナホ

下シモ松マツ浦ウラ源ゲン次郎ジロウ右ミチ次郎ジロウ

御ミ厨チ店テン七シ百ヒャク五ゴ十ジュウ町チヨウ久ヒサ右ミチ次郎ジロウ右ミチ次郎ジロウ

枝エダ

峯ミネ右ミチ次郎ジロウ

持モチ

峯ミネ源ゲン右ミチ次郎ジロウ



繫つなぐ

松浦源之郎

湛たみ

峯人之郎

蒼あざ

源之郎

宣のたま

肥前守

膳たね

肥前守

瀧たき川がわ

興業きうごう

肥前守

肥前乃國勢いぜんのくにせい一任ひとにまかして平戸ひらとの城しろ  
住すまむとせと肥前いぜん一列いっぺつれ流なが士平戸しひらと一  
系えい勸すすせしむる乃取とと肥前いぜん壠うらと号ごうと

安正やすし

肥前守

昌業まさごう

肥前守



正林

肥前守

是眞

肥前守

世に我らと冠肥前と号と平戸と  
と云く若宮大神と云く  
と云く社今と云く

義

肥前守

普廣院義教の恩顧と云く  
して服巻錦乃半切色襦の鞆履亦  
と云く  
普廣院義教乃平戸小寺こえ  
而れど正家と云く京都より乃が里  
平礼と云く



とがしつらまら教ん判髪して  
袂衣とぬき法衣と着るとりて  
天叟義と号し平之乃時是與る  
入信と又新に普門禪ととんく  
普廣院の尊像と安置し尊崇と  
はと正こゆり在世乃之記のいふ  
子孫またいづるもく敬仰とらる事  
やじとなし天叟乃尊像の尊像と  
景も初焉是と賛と

豊久

肥前守

弘定

源之郎

弘定屹然乃こき事あらうとれとあり  
期しとてむく真信とじりり真信  
十余歳よりして死する國の事と



母氏ハハ不レ孝コウとシてハなレこノふレはレり  
人ヒトみミかカらラ女メをヲとシよ

眞信マコトノブ

肥前守ヒメノミ

隆信タカノブ

肥前守ヒメノミ

とシてハねレ浦ウラ乃ナ波ナミ多タ之シ河カ守ミ大オホ村ムラ利リ泉イハ

對ツ馬ウマ乃ナ一ヒト騎キねレ遠トウくニ之ノ家ケのノ昔ムカシ成ナリわレせ  
平ヒラ戸コとシ執シ事シとシ宍シ保ホとシひレくニ隆タカ信ノブ  
依ヨ門カド早ハヤ岐キとシてハなレるニくニむレんニたレかレり  
まレまレ井イノノ井イ平ヒラ廣ヒロ田タのノあレ城シロをヲまレりて  
ゆレせぎ致チカひレ大オホとシ揚ユウ利リとシ得エ之ノ家ケのノ昔ムカシ  
決ケわレりて敗マク小コとシ大オホのノ外ソト隣トナリとシ此ココ共トモとシ志シ  
たレくニ致チカひレ志シをヲくニ勝カチをヲ境サカイとシくニ  
我ワレのノ威イとシ伏フスとシ

天アメ正マサ十ジュウ也ヤ年ネン秀ヒデ吉キチ津ツ義ギ久キウ号ガウとシ



征せんがきよ九列へ渡御の時隆信  
隆信父子相といた陣以よとてして  
且薩列乃海海若松とてつと警固  
正んきののじつと書とてすかろし御  
領事とて御朱印とてつと隆信  
亦乃こき九列いさぶ平治せつれり  
一揆乃逆徒志とておころ舊國の士  
大吏こつとひとた二心とてし  
さますこと事なり隆信父子決

いり貞節乃みさほ成るんせと忠義  
乃あらんことかこくまお秀吉感  
快の河よりいよく軍忠とぬまん代  
向し志とて本領の地は沙汰とらに  
及ぶと忠義とてしつと恩賞とてし  
るきのしひ十数通乃御書とてあつ  
御書いよまたつとつとわり

同十七年肥後の一揆に凶賊蜂起正國  
由大りみとて秀吉加友とてし



命じて津由の歩兵お借し、  
退治と隆信、隆信父子多功を率して  
相し、小國中漸たし、志岐  
天草、さかげ、隆暴小して、  
くさくさと、自平、改み、川、  
か、賊物と、穀、曾名、さか、  
隆信、隆信、父子、さ、大、  
卒死、さ、その、存、志岐、  
落城、平戸、小、さ、七十一

川、痛死、法名、道可

鎮信

肥前守 生國肥前

判發、後天正十七年二月廿七日

式部卿、法中、叙正

文祿元年、秀吉、朝鮮、征伐、の、

小石、津、馬、大村、  
法中、同、是、男、久、佐、先、陣、

法中、同、是、男、久、佐、先、陣、



物群モノグン一ひとりおしじく法平ホウヘイ久位クイ手て摺ずい之  
千人せんにんなり

同年四月二十日去別こ 夙ふ夜よとき  
ら別た別べを崎さ一ひとりいふ家け同どう廿八日  
釜山ふさん浦うらより金きん葉えを唐たう掠りやく一  
忠ちゆう別べつと平へい法ぽうして不ふ日じつ小せう教きやう城じやう一ひとり入  
平安へいあん道だうよむむじふ遼りやう東とう乃の境きやうよのぞ  
じ法ぽう平へい先せんふりる久く位い復ふくりすむ  
敵てき告こ久く位いとがこじ事じ 檣じやう麻まれふ

久位くゐより久く席せきせと大だい一ひと敵てきく敵てき軍ぐん  
と也や姆ぼ乃の士し率しゆつわうひる討うち死しつらひる  
志しと義ぎ一ひと決けつ井せいよひこみとふぬふ  
聖せい年ねん大だい明めいより李り郎らう 娜な蹟せき郎らう 娜な友ゆう  
将しやうと決けつころし漢かん南なん乃の兵へい百ひやく萬まんと率しゆつ  
て朝てう鮮せんととふ小せうお孫そん津つを對たいる大だい  
村むら也や崎さき法ぽう平へい父子ふし兵へい騎き二に百ひやく余よありと  
為なり一ひと聖せいと聖せいして大だいまは成せいふせぐ  
是こゝより先せん日じつ平へい乃の法ぽう將しやう群ぐん議ぎ一ひとり



郡よりゆへ漢南乃若成竹包き、とと  
お交と部より平安道小おが陣小  
いよりまゝとく百五十里と包ぐべし  
其わらひ大友宗麟思田甲斐守小川  
吉川柳沢等とより七城あり小お  
等おおへしとこれ城より依附を  
おさめく部より入んと正月廿六日漢南  
の昔小お法印馬ある等の陣とをまふ  
小お法印馬大よ戦すまゝ小お陣れとき

旗旗と張り他とがしてこふとを  
村軍より放火と大友宗麟城より  
と此とがらうら大友と此とをらう  
一軍望を慮なり小お馬怒く大友  
の陣前と包きしとひ思田甲斐守が城  
小おのしく思田おとく戦伐み若幸  
と若と思田士の殿守人と成るふそ  
竹村十敷置漢南と相戦幸一敷度小  
及く部より入んとと漢南の昔又来り



進すすじ安やすらしむくゆゆああ事こと相あ思し田た軍ぐん  
紫むら弓ま吉よ川か小こ軍ぐん川か立た死したと号ごうがが昔むかし氏し合あて  
漢かん軍ぐんのの兵へいとと相あ戦せんくく大だいにに勝か利りとと得え敵てき  
之の百ひゃく八はち十じゅう余よ人にんとと殺ころしし耳みみ鼻はなととままりり  
之の日ひ平へい名な護ご屋や本ほん陣ぢんにに敵てきししてて  
まま川が取とり

交か長ちやう之の事こと取とりししててひひくく漢かん軍ぐん此こゝ共ども  
ここ小こ等とうとと相あ挑てん乃のととここ漢かん軍ぐん仍なほてて和わ  
漢かん軍ぐんとと小こ等とう乃のととここ漢かん軍ぐん仍なほてて和わ

廿に二に城じやうととありあり事こと之の置ち法ほつ平へい不ふ進しんとと  
可か小こ比ひゆゆへへにに法ほつ平へい甲かう冑ぐとと朕わがとと漢かん  
軍ぐん小こ等とうととここししてて緯いすすててくく一いっにに危き急きふとと  
及およびびてて法ほつ平へい援えん兵へいとと殺ころししてて相あ戦せんひひ小こ等とう  
ままぬぬ何なに事こととと得えたりたり法ほつ平へい昔むかし乃の殿てん  
志しとと法ほつ平へい意いををくく城じやうにに入い別べつ鮮せん在ざい陣ぢん  
七しち日にちののるる秀しゆ吉よ吉よ乃の使し者しやががくくびびとと  
御ご書しよ教かう十じゅう通つう及およびび小こ神しん羽う藏ざう惟い子し等とう此こゝ教かう  
道どう寺じ乃のりり戦せん切きとと号ごう廿に二に乃の御ご書しよ今いま



小わり

同又年石田治部少輔之成謀叛と  
金中必お國の人々大車を興堂  
きうとことども法中を此借使と用ひ  
正一途より

東照大権現御一味の志とわつと是と  
もろく水高ありともひくお節と  
ぬえんげんし御感のわきり同車  
九月より水教書と下る御書今よりわく

同十九年平戸よりとも病死六十六歳

久信

肥前守 生國肥前平戸

父法中おともは物解ふおじう在陣

七年瑞一

又長七年法中少少くお去と十

二歳



隆信

長波寺 生國因

寛長八年十之歳の秋と云

大権現より湯へきくま川

同十七年九月後也位下小叙

小信と見換位叙位の時さ改くを

改ちと号と

元和元年大坂の乱の時御降

四月廿九日平戸の来と別五月朔日

告祀と信一太坂へおしん

とらんよ藤列蒲列よとらん

故ある長波なる花勝と来

大坂落城の時成告ふまよらん

中入人数多藤新らも國へ

隆信も和と進八月十一日と

二條の御城へ

大権現より湯へきくま川



とひく

名流院殿よまふえきまらふ

同七月晴き句り下國せしむ破心

なりひよ肥あまの門松陽那破梓那平

戸部合六可之予二百ふと候也

名流院殿御朱印六まきわ

寛永十四年五月廿四日御入とまひく

病死四十七歳

信原

半石忠門 生國以

寛永十年

將軍家よ御賜いひたまし

同十二年より二十水小姓組い乃た勤い

同十五年九月よ死と歳四十二

信生

左門 生國以



寛永十二年九月

將軍家より謁としきりし旨

同年十二月より御書院ごしやういん事と申し

同十九年小普請こぶしやうの役申し

鎮信しんしん

肥前守 生國武藏江戸

八歳のとき

將軍家より謁しし旨

寛永十二年十二月と後ご位ゐ下げ叙ぎ

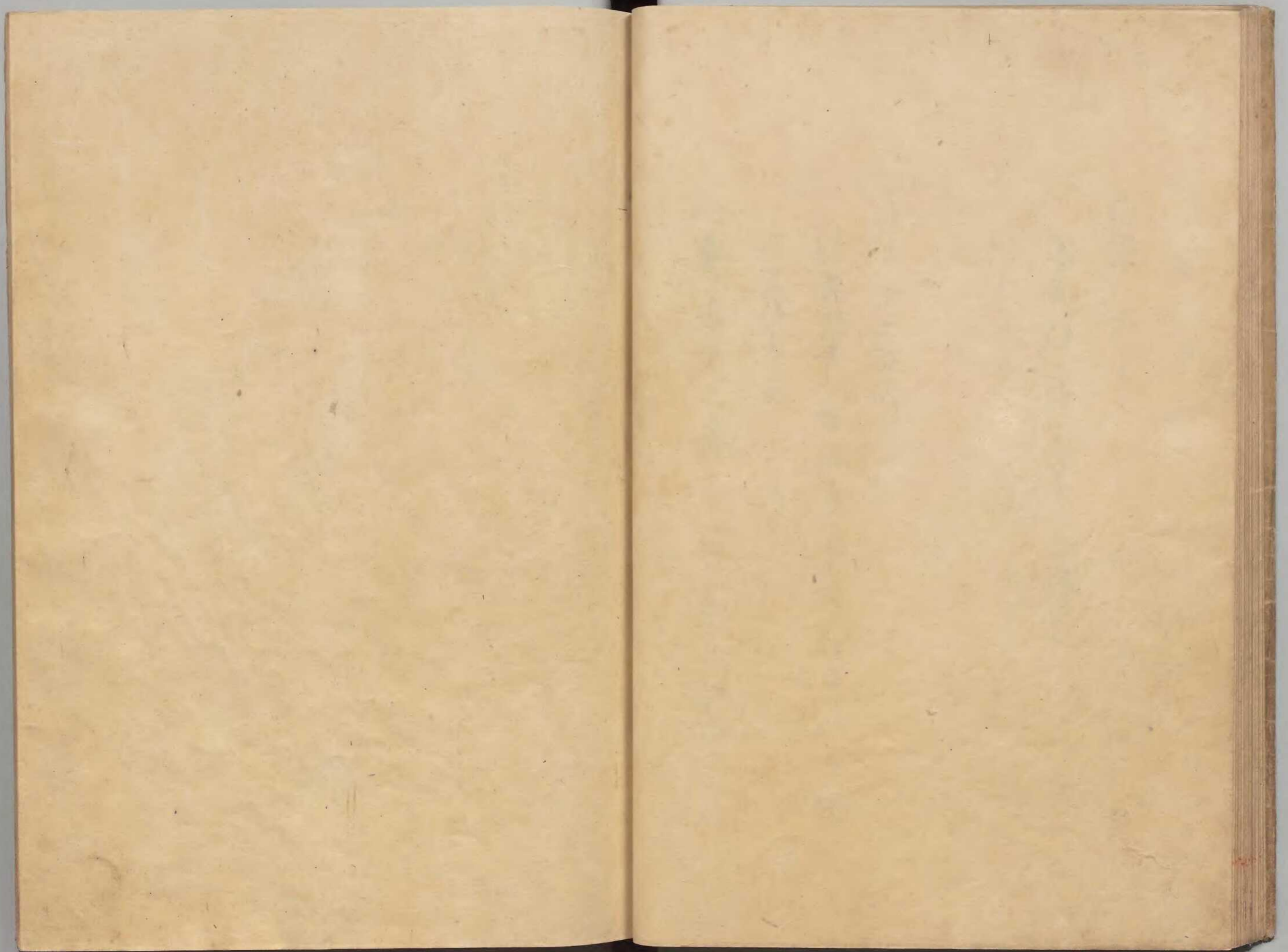
一肥前守より任じ

同十四年ご冬ふゆ武藏守むさしのみやしろに任じ

之千二百石と申す

家乃紋二引ご及およ之の御ご親ちか系けい







●  
澁信

肥前守

法名道可

松浦

鎮信

肥前守

新嘗乃後式部卿法中子叙正



某

丹後守

道可二男二十一歳一と死と 法名  
月秋つきあき了り心こころ

定

丹後守

朝鮮陣てんじんのときとき年とし五ご道みち小こととああくく結むす死し  
歳とし二十にじゅう之し 法名ほふな宗むね伯はく

信正

丹後守

元和九年げんわくねん年とし之の終はつ小こととああくく病やまひ死し歳とし  
之の十じゅう之し 法名ほふな正ただ宗むね清きよ安やす

信貞

八左衛門尉はちざゑもんゑい 母はは八はち左ざ衛ゑい尉ゑい 肥ひ前まへ 久ひさ信のぶがが女むすめ  
寛永十年かんゑいじゅうねん



將軍家より御湯みゆへきりしに  
川十二年より御小姓こせう絶たぎの事ことと決きし



●  
南虫

渡色

大位贈正一位 嵯峨天皇弟十二孫源氏  
兼和也年以裏小少ひくひく母  
正分らら源氏姓を賜 河原院と号す



昇のり

正之位大納言

河原大納言こ号

仕し

從五位下

武藏守

定さだ

源氏

綱つな

武藏國是立郡其田たの河原流かふが川が々  
其田源氏こ号正と又其田源氏こ号正と

源氏別當 渡邊こ号正と

光天こ号正と其こ号中こ号正と其こ号中こ号正と其こ号中こ号正と  
なり 仁明天皇こ号御こ号子こ号左こ号大臣こ号源氏こ号公こ号入  
源氏こ号敦こ号綱こ号正と養こ号子こ号正と



久ひさ

源次別當げんじべつどう

安やす

源次大支げんじだいし

瀧たき

之條院このじょういん

傳つた

源也げんや

源大支げんだいし

源也げんや

白川院しらかわいん

滿みち

源也げんや

鳥羽院とりばいん

省しやう

以即いそく

攝摩寺しやまじ



授まか

右衛門尉 勘官 薄摩守

繁しげ

左衛門尉 勘官

兼かみ

遊あそ 右衛門尉

經つとむ

左衛門尉 勘官 勘官

企くま

右衛門尉 勘官

後のち 院のえん 下した 波なみ 色いろ 武ぶ 者もの 取と



後忠

源六 美田若清尉後重の養子

忠房

刑部の進

満綱

源次右馬の允

元綱

源次右馬尉

頼綱

源次右馬の允

後小松院御宇右大将義満中納言の賜  
諱の満字と賜あり先祖の綱乃字成  
るく満綱と号と後忠武者也



安綱 やすな

源五郎門

道綱 ちのち

源次

世時よとより重之しげゆき之の別わか家や田だ郡ぐん浦うら島しま村むらより住すまむ

國綱 くに

國信くにのぶノ子こ上かみ尾おノ住すまむ

平七郎 後のちに清きよ五郎ごらうニ号なづかふ

行綱 ゆき

平七郎 後のちに清きよ五郎ごらうニ号なづかふ

永祿えいりく五年ごねん四月しがつ十八日じゅうはちにちより死しす

春綱 はる

平七郎

東あづま巡めぐ大おほ控か現げんノ一いち人ひとノ一いちノ名な列れつ載ざい



範綱

源左九郎 之別海部村一住也

長親 信忠 清康 君決ふり

享祿二年五月廿六日之別下地

之ひく 討死 歳六十 法名 亮丸

有綱

源次 後 清康 君 之 別 環海 郡

赤濱 村 一 住 也

清康 君 之 別 廣忠 卿 決 子 別 也

永祿四年七月朔日 死 歳八十五

長綱

甚忠 卿 後 清康 君 之 別

廣忠 卿 決 子 別 也

天文十一年十一月之日 死 歳六十

沖綱

源次



義綱

大権現より決りきりし

寛永十二年十月七日武列入向

とひく死に歳七十九

八郎之郎 活り八右衛門

廣忠卿とよむ

大権現より決りきりし

天文九年六月六日之別安城より

の城門より射りし時敵と射事を取ら

是より射りし敵ありしと射事とゆ

川十八年十月廿二日之別野城とせし

く敵と射りし時敵より射りし

城とせし時加勢となる浮貝より

て軍川友大吏と射りし

永禄十二年四月廿六日卷別赤坂村

とひく死に歳七十



秀綱ひでな

八郎之郎 後、他馬と号す 母、

小笠原之郎左衛門之女

大権現ノ侍ノ者ニシテ

文祿二年十月廿四日、死ニシテ、歳、十九

庵綱いん

仁号、

享長十六年二月之日、死ニシテ、

六十也

雅綱みや

加平

享長三年八月朔日、城ヲ、伏見、此城、

ニシテ、討死、歳、四十一

氏綱うぢ

次郎、河、母、上田宗太郎

長房之女



照  
綱あき

清康君とよび 廣忠卿ははふまら  
冬列下比合戦のとき父範綱とよら  
きら敵と其場よとひく討死  
永祿六年六月廿八日冬列浦辺村よ  
とひく死と歳七十五 法名宗圓

物右衛門

清康君とよび 廣忠卿ははふまら

天文九年六月六日之列安城よとひく

景  
綱かげ

討死歳四十九

左衛門少郎

特  
綱とく

左衛門少郎

之列野よとひく討死尾列の  
勢と村よと



遠とほ繼つぎ

平六 後よ六郎左衛門と号す

清康君とよむ 廣忠卿

大権現水之代りけし人おそくは川親

天正十一年七月廿二日冬列海船村よ

とひくはと歳七十九 法名道可

真繼

平六 後よ六郎左衛門と号す

天文十一年冬列海船村よ生る十一歳  
小一七

大権現よりけし人おそくは川親

冬列八幡合戦よとひく高名わや

同玉一向宗二棟のこころ二棟よとよむ

根来十門が首成る又之別名田よとよむ

海と合を列一と坂此のよひよとよむと敵

と道梯

同玉之方原合戦の時玄然のよとよむ



又尾列長久手よとひく高名あり  
吉田河津陣あり

白旗院殿よりあつごひきく高名あり

寛長六年正月廿六日死し

五十八 法名津佐

生綱

平六 後小太郎左衛門尉

十六歳より

大権現より決りてより新府御

陣に供奉

尾列長久手合戦より高名あり

尚原より開ヶ原河津陣に供奉

寛長十八年 命より高名あり

相室小房より大坂まで河津陣に

決りて其後相室の旗をたてたり

寛永十二年十二月朔日記列り

とひく死し七十二 法名宗念



真綱

平六 今古名及水門の号と 牛園茂茂  
十回歳川一之

名流院殿一之清ふま川に

寛文十九年大坂御陣の時古坂

山城守組一之屋とて侍奉

翌年夏御陣より高木主水組一

之一二月七日此合戦より先入りす

陣と之川之突合戦とて始り御  
陣の後御慶養也一之也百石此  
地とて是也

盛綱

平六

十回歳川一之

將軍御一之譜一之とて是也



高經たかのね

源又右衛門 牛國參河 母は都筑

大炊助忠政おほいけのすけのちかの女むすめ

廣忠卿ひろちかとよむ

大炊現おほいけのあらよりはくまきくまの歌

天文十六年九月六日あまのふ上野かみの城しろと

せめ給たまふは 廣忠卿ひろちかの先給まへたまとなり

之陸成このりく合せあはする名ななり

弘治二年二月廿日こうじにねにふににじふにち

大炊現おほいけのあら後のち府ふより海うみより松平基太郎まつだいらもとたろう

とけりてれ参まゐり日進ひつしんの城しろとせめ給たまふ

時高經ときたかのねふまきよ志こころこひ陸成このりく合せあはする時

小基太郎こもとたろう討死うらしたし

永禄七年正月十一日えいりくしちねんしげつじゅういちにち参まゐり針崎はりさきより

とひく討死うらした歳とし四十二よんじふに 法名ほふな長軍ながぐん

興おこ綱つな

友とも範のり



永祿四年八月廿日之列下和四一  
とひくみと歳之十七

守鑑

半花 波よち名連のこ号と 母は

波色八右衛門義綱の女

天文十一年之列海部村よちり十六歳

小一と

大徳現よけくちとくまらね

永祿元年尾列石津よちひく水野  
下野ちと合戦のここ十七歳しりて  
高名なり

大徳現之列長澤の城よちち屋ぶり

治小村よ守鑑小原友十郎と鑑て首

と五麻美とく是今川随一の士なり

とのこまよ

同也年九月廿九日登列八幡よちひく

氏真れ共板倉弾正と鑑小村よ軍利



わしと志く二邊にゆく退守鑑石川  
新九郎に新七郎ととも六田の畔に  
せし引退とてに敵六邊に退る  
甚急なりと人も合と侍事之度之  
後二人を足元守鑑也合事十度  
鑑合しりしとて度なり時り矢  
田代十郎是病と退事なりと  
守鑑六邊とたてし米津友義 水謀  
の事とカクとてとて敵の事と

的守鑑とてなりと一合と敵事  
時名宗は山下八郎とて討之首  
成懸米津とてとて名なり

大権現を以てすりて板倉と討く大よ  
橋本首実持の時

大権現のありしとて先手殿水のこと  
一方の軍士と六十騎とて一方は士  
卒とて先手殿一人が鑑と  
りて一人とてとて十人



とすすく是にともく世人種事就  
と号して

之列小坂井合戦の時さきりけり  
高名なり引退時と友傳は即座と  
あへく退事わす定法人大まき成  
たところ家と成得と守細肩小け引  
退敵事なりとさく是とさくひめ六十  
町と名く御神よあり

同六年又小坂井軍の時先陣と心

ぐ野倉守兼守細とさくしち程た  
かす御事と名くけお種と合戦  
のこれ横銃よさく一症とさくゆり時  
野倉ありとさく敵先と退事なりけ  
とさくね山久四とさく族地とさく  
しちく敵二人とさくらたとさく平岩  
ちる物とさくさ成ひさひさく事家  
町が地とさくさくさくさく  
同年と之列一向宗一様とさく家時と



守鑑と宗貞とあるゆへとて一様  
くこゝと和州にけし合ふ一番に鑑  
合はしり安信守郎宗貞かまの申  
より宗貞より守鑑が腰と射渡  
源次より安信と射ら其時敵一人け  
お守鑑の者城戸口より追込  
大権現針崎御お馬の時中根表一様  
の輩と鑑と合と守鑑下り  
入太のとり川の中根と中根鑑と

正しく太刀と指く切合ふ事より先  
矢田佐十郎物倉は逆見物とまを  
曾士お集くいしとよと戦場  
とひく一番鑑の者よ時二番鑑ハ  
とくしりつる太刀ととりしりし時  
り物屋十郎と部名宗のり守鑑  
ふまは刃く中根と是とよとよ  
お物屋と切合守鑑とかり物と



とてと遂に物成と切たし主首と  
うらんとと成取よ河澄又物うら  
よま来り種とと川く是とけく  
守鑑た刀ととらうく是にじよ河澄  
引退又高網来てい  
大指現今まきたに主給んとと敵と  
うらと高將なありととらうく引退時よ  
矢一りわくこらうく敵ととらうく物ら高網  
先と肩よけくじよ敵とと掃て

区油の高網其取死と矢成抜く先  
とらバ内友甚布と本はせく二月  
十日石川又守部根来十内布施  
孫左衛門等道の明くつ小伏こ此時  
針崎より物尾守甚寛助太史渡道  
年六亦伏取よむら時に伏共名衆く  
ひあ守甚鉄炮とと川く又守部取  
うつ又守部取とと物らく区守鑑  
とらうく十内と決よ少と年六と



首とらり申悪物去まは孫五郎と四合  
守鑑とて川之孫五郎とては伏  
一横号教者とて一物方時よ

大指現年若名十郎と御使や  
あはと改之は人まきまらんと  
よしれ物とて一物方守鑑  
名命とてけ即日は得見一  
まらり父の家督とてまらり  
海部村の門貞國よとひく百貫地と

成と書後又國政よとひく三十貫と  
くらんまらり

永祿十二年幸別掛川よとひく今川  
氏貞と河合戦敵軍敗小の時孫五郎  
つと一人と実して城門よとひく  
とて城中都とわけとて切とて人  
とてりた似きく味方是とてとて  
先と守鑑一人あまらりとて敵と  
お侍よとて見孫五郎返一とてとて



とも敵討りしむとわらぐゆよおれた  
ありぞく

同年今川与意兵舟を別懸塚の邊に

大権現御座小平太大須賀守元

夫志未のよ命にて是とせし

時より御旗本守元とせし

加勢よ決りし時守元とせし

船中の者七人とせし

元亀元年

大権現信長とすして越前守

たよりひ引退給ふ時敵先と守元

也一命を敵とありぞく

同年六月廿八日堺川合戦の時守元

本より抜おく終と命と

同之年長四代先鋒を別見付意に

お法よ命一言坂よりとせし

敵と拂く也

同年十二月廿二日遠州之原合戦時



大権現守鑑とく先陣の軍と進  
せし守鑑先陣より敵に動静と  
うかぶ山林野原にむきと其  
弟といふ事と初時よ采田七九郎  
大久保七郎右衛門先成ひさし  
あ人へかたわらしく敵軍は  
おなりとく我らとくま  
戦の勝利とゆへに  
よあましくまんよる志と

とともあ人先敵軍とく  
まんとく敵軍のお  
いふ味方殿と石川作者  
武田先陣と名ひし  
は権成合と守鑑と  
はは武田大軍競本家よ  
味方殿と作者と少  
二跨りく敵士是と  
あましく少少の先成と守



是はとらんく之をよけりかを合せ  
くともいふくせくくもくもくもくもく  
小ゆんくもくもくもくもくもくもく  
まろ大官通より幸河町より家  
とひく味方六七人ありて  
玄然といふく瀧松の城門と守り  
敵とてよむり時守網けありり二度  
獲とてよむりくもくもくもくもくもく  
勝首甚くもくもくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもくもくもくもく

後一鳥居先太夫  
いひよもくもくもくもくもくもく  
守網

大権現よりまろくもくもくもくもくもく  
くもくもくもくもくもくもくもくもく  
後を別瀧名郡吉美村の四七十貫目  
四貫目郡立野村の四七十貫目  
百貫目地とてよむりくもくもくもくもく  
池内より張と

大権現御お馬わり敵人はとてや戦と



あゝあゝぞく守綱是と也く一人と  
討大久保守郎は即とく其首級  
とらへし日首級は先一なり

天正二年五月廿一日冬別長藤合戦  
のとき守綱先手となり是時とを  
せしめいざと戦く疝とけりゆら敵軍  
敗れし後者と討とて首とす  
武田の將後別田中乃城と守り

大指現御あるは時味方の先陣と敵は

先陣とお對して是より先陣とせしむ

大指現守綱改細先手は命あくるの  
く先陣の決は之の戦はこりしと利  
わが危くは汝等程く是成れさる  
ゆへし先手は 打ちせとけしる  
ゆへひて先陣とく一回よとす海  
しは敵陣ひききなりひくは此  
いさなりし先陣の士卒  
と引はまきくゆり



を別天方の城とせしむ時中十郎政綱  
先陣より城中より突くお政綱  
是に致す時に守綱をせりしと先と  
とくよとのとくは鎧炮よわつるとして  
心とくしつな故しり敵と掃ひて  
兄弟ともしよは  
遠別大井城とせしむ時守綱我切わす  
同十二年四月九日長久手合戦の時  
守綱平の是將取なり先陣とて

よ敵をとりし時守綱は勝つて  
軍の将とんとし軍事とせむ  
つとめはしむに謀平よとんと  
通しつに友軍即ち本よある  
よ途ある軍より同守綱がい  
味方すつと利をうし敵に  
を越えくけらるる時長よ  
謀平の軍とつと是に突つ  
勝事とつとありしとあり



よる旗本へ八道あり一、東あ人びり  
をま川へ旗本へ傳ふなり一とつり  
實り一とつり守綱又先陣よくつり  
足輕とつりて鉄炮とらるる一むら  
よわつりてとつり一敵一  
全固扇とつり川へ軍士とを退せ  
一りり

大権現の御旗本よを討ちたり守綱  
足輕とつりつりつりつりつりつり

鉄炮とらるるつりつりつりつりつり  
の陣すつりつり破とらるるつりつり  
是をさつりつり守綱はつりつり  
とつりつりつりつりつりつり  
其首とつりつりつりつりつり  
一突打たつりつりつりつりつり  
里旗本よとつりつりつりつりつり  
くのら

大権現守綱とつりつりつりつりつり



あゝ軍士の軍乙と會議せしむ

同年沢井石清の織田信雄にあり尾列

黒田の城とまじりて法野跡若木村常

陸等川と名づく陣あり

大権現守相の命とて是とすくりに

守相是時等とひいひく黒田より

本凡とまじりて沢井ハ二の凡とまじりて

同十八年相州小田原御陣の時從將

とひいひく謀なりを

大権現開業と依りて時二石とく之

をむけり武列比企郡よりひく諸合

之石と相依りて是時之十人とあり

あこたに也十人あり

同十九年奥列九部一揆起り時秀次

會津より陣あり

大権現石手沢の陣を有る九部没落

と後守相とひ大久保若木水野

府と大吏の命にて北鴻の色をこり



まづりく制法と定一し

文禄元年朝鮮と征する時

大権現肥州名護屋に陣は時守備

是時とひさしと信奉

是長之年考者荒遊のころ

大権現伏見をへり大坂より

とさき常の御をさしと決るを

ま川に於て秋景勝と遊討のよ奥列

よ御を教のころ大坂の九

よひく法大名湯見しきまの御時

よ守備とさしと南無とさるる又

是時と十人ともく之新とさるる又

人なりは是時とひさしと信奉

野別小山よ陣家討りとる時と

大権現御を教りし

同八年九月十日開ヶ原合戦のころ

是時とひさしと御旗本よ守備

進といふく陣地ひさしとて法軍



凡そ此祿がしるべき地より一たを  
大権現よりよび給ひて守郷が務め  
由せ給ひ御本陣と高地より  
こしりて敷家よとひてはまびつた  
陣中此勤禱と家一敵軍皆賜る天  
下一統の後江州坂田郡よとひて中を  
加賜はれ同心と十騎の給知六百石を  
洲橋原郡よとひて中を  
同十五年美坂九若木と川よ水使

守郷とよび重徳父子義直卿  
小原と名まきのよし 物下よ家  
義直卿の心よふいふ給事あはば  
事つてよとひて先よとひて冬州  
賀茂郡よとひて中を此地と給よ  
又尾州よとひて中を此地と武州  
江州の給地えのよし 前後の給地よ  
て二百石石足給よとひてえのよし  
同十九年大坂の乱よとひて義直卿も陣



守綱父子先年此將とあり

同二十年夏大坂まゝと云ふ家

大塚現とに命とて守綱と云ふ

義直卿の明りつゝと云ふ子重綱と

志く先年よを一し

元和六年正月九日尾州名護屋へ

と云ふと死と歳七十九 法名道喜

改綱

守十郎 後よ新九郎と号と母同

天文十三年冬列浦新村に生る十歳

子一と

大塚現より津へ志くまゝと云ふ

永祿五年冬河内合戦よ十九歳よ

志くまゝと云ふ

を別六道の一歳よ一番よと云ふ又

同五一玄坂の志くまゝと云ふと云ふ

敵と掃之方原一歳のこゝと云ふ

まゝと云ふ



冬列長藤合戦より西源右衛門と討死  
 後列田中城よりくきとあつて御  
 天方城とせしむ時先鋒となり持舟  
 の掛合より名あり  
 尾列長久手合戦のときより見物  
 とせし御旗奉行とせし  
 安長元年一月廿四日武列御介  
 とあり孔正歳五十二 法名休岳

秀綱ひでなづな

年十郎 今右新左衛門と号す

重綱しげなづな

年五 今右新左衛門と号す 母氏  
 年右新左衛門親重ちかひらの女むすめ  
 天正二年冬列浦和村より十歳より  
 志々



大権現より決てをさくまらり小内原奥州  
開ヶ原等の御陣旗本をさくまらり  
安長十五年

大権現此御命とすけく父守經とす

義直卿より属と

同十九年大坂御陣より父守經とす

先子よりなり

同二十年其御陣より 命より

よりくも御義直卿の明るりに

左衛門右衛門の将となり

元和六年四月九日守經死す

多徳院殿の御命とすけく奥州河内

の地と承と義直卿より命より

家督と承ししよりら騎馬同ん

給ふ其地とすく七千八百石

なり

宗綱

守經

守書助

母よりなり



天正七年 幸<sup>せん</sup> 河内<sup>こうい</sup> 瀨<sup>せ</sup> 松<sup>しょう</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
川<sup>が</sup> 一<sup>いつ</sup> 之<sup>し</sup> 川<sup>が</sup>

大<sup>だい</sup> 掾<sup>げん</sup> 現<sup>げん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
文<sup>ぶん</sup> 祿<sup>ろく</sup> 九<sup>く</sup> 年<sup>ねん</sup> 命<sup>めい</sup> 令<sup>れい</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>

多<sup>た</sup> 瀬<sup>せ</sup> 院<sup>いん</sup> 殿<sup>でん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
長<sup>ちやう</sup> 之<sup>し</sup> 年<sup>ねん</sup> 幸<sup>けん</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
儀<sup>ぎ</sup> 年<sup>ねん</sup>

同<sup>どう</sup> 十<sup>じゅう</sup> 八<sup>はち</sup> 年<sup>ねん</sup> 御<sup>ご</sup> 使<sup>し</sup> 者<sup>しや</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
同<sup>どう</sup> 十<sup>じゅう</sup> 九<sup>く</sup> 年<sup>ねん</sup> 大<sup>だい</sup> 坂<sup>さか</sup> 陣<sup>じん</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>

同<sup>どう</sup> 二<sup>に</sup> 十<sup>じゅう</sup> 年<sup>ねん</sup> 夏<sup>なつ</sup> 月<sup>げつ</sup> 命<sup>めい</sup> 令<sup>れい</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
事<sup>こと</sup> 之<sup>し</sup> 儀<sup>ぎ</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>

大<sup>だい</sup> 掾<sup>げん</sup> 現<sup>げん</sup> 諸<sup>しよ</sup> 府<sup>ふ</sup> 御<sup>ご</sup> 使<sup>し</sup> 者<sup>しや</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>

多<sup>た</sup> 瀬<sup>せ</sup> 院<sup>いん</sup> 殿<sup>でん</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
開<sup>かい</sup> 東<sup>とう</sup> 乃<sup>の</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
法<sup>ほふ</sup> 軍<sup>ぐん</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
出<sup>しゅつ</sup> 馬<sup>ば</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>  
伊<sup>い</sup> 和<sup>わ</sup> 山<sup>さん</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 河<sup>か</sup> 内<sup>ない</sup> 幸<sup>けん</sup> 入<sup>い</sup> 生<sup>せい</sup> 年<sup>ねん</sup> 十<sup>じゅう</sup> 之<sup>し</sup> 歲<sup>さい</sup>



大體現れくるまじくをふ海一京初り  
とひくおつ一敵軍をく一昔成  
あしよとびくを先とつたく  
いふ成を川く海く  
多酒院殿よりとと

同年五月四日同方山四十丈大田  
昔丈史と友勅志忠の軍一宗洞と  
之川く先子此取ふはり一七日  
よ御かきくくよまをく御下知とけ

き由り天王寺中町通を宗山川  
長之郎天方主馬若こ子貴標よ御  
城門とくよとせり城と居がうて  
いんさど時一城の門より砲を  
と突あし長ら即まふよとく  
是と突を後敵砲をおよと城の  
よと鉄砲とふ川宗洞此若の面と  
突事二砲志れと城をく首  
と名りと得ととく



山田十右衛門并に宗綱二人従はんとく之  
を命ず

元和之年に因付こかり

同年に友朋後者が家内有人に於て宿と

を争はく不和の事あり時よ服後者

兼り家老等と江戸よりせしむ

又山田十右衛門と宗綱と服後者よ

所うなれ因てこの事と札のせしむ

よもあはく此國よりせしむ 上意と

有る死刑流罪等よりせしむ

同七年福清左衛門大夫罪をく國と

しとて時よ安友對するも永井友と

しとて廣嶋の城を没収せし宗綱

後より 命とせしむ此國よりせしむ

廣嶋の祈と行をせしむ

同七年元と源二郎罪をく國とせしむ

とて海にまきよ宗綱松平陸奥ちが難

者二千とひくくも此國よ系向



正徳三年の事 将命を如くゆり

此書より或る城をけし其事と

七重の中堅城は是より少く度く加増れ

比とよりゆりり城地と云く之より七百石余

寛永三年没也位下り叙と

同九年

將軍家の将命よりゆりゆり御弓矢と

なりゆり力十騎是將之十人と叙の家

同十一年御鉄炮歌のなりゆり力二十騎

成綱

是將百人と叙の家

忠守即 母の忠節母波も其章の女

天正十九年武列の戸よりゆり力十之歳

山一と

各酒院殿よりゆりゆりゆりゆり

大坂の度御陣より修年

元和三年 各命よりゆりゆり

將軍家の御津よりゆりゆりゆり















正綱

寛永十五年同前より

半助 母同前

寛永十七年同前より

之綱

門通助 母同前

寛永十七年同前より十六歳にして

將軍家より決りしに

完綱

寛永十年相列中郡よりひく七百

石此地より

同十二年 命よりけく又重綱

依知の門河列坂田郡の地千石とゆつ

半八 母同前 式部少輔氏信の女

寛永十九年武列江戸より



家乃級之<sup>三</sup>星<sup>二</sup>一<sup>レ</sup>文字<sup>ト</sup>



